

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H10	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					参画事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会に会員として負担金を支出し、協議会主催の会議、イベント、キャンペーンに参加している。 ※「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会とは、栃木県への観光誘客の増大と定着及び観光産業の振興を図ることを目的として、県、市町村、観光関連団体等で構成している団体。平成26年より「やすらぎの栃木路」共同宣伝協議会から「本物の出会い栃木」観光キャンペーン推進協議会に名称変更した。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	関東地方及び近県住民（1都6県+福島県+新潟県）を対象として栃木県への観光客の増加を図り、佐野市への観光誘客に結びつける。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	(市の活動) 負担金支出、会議への出席、広報宣伝物の作成協力、観光キャンペーン参加 (協議会の活動) 会議の開催、パンフレット作成、広報宣伝、イベント開催	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議への出席回数	回	5	5	6		
		イベント等参加回数	回	7	6	4		
		事業費計	千円	250	100	100		
		一般財源	千円	250	100	100		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光入込客数が増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

広域連携でのキャンペーンをより多く参加、また、分科会事業に参加することにより戦略的に事業を推進することで成果の向上が見込まれる。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
観光誘客のターゲットや方針を同じくする自治体と連携し事業を実施する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	さの新春うんめもんまつり開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	「本物の出会い」栃木「観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H28	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					支援事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	さの新春うんめもんまつり実行委員会に対し、運営費の一部を補助することにより、まつりを安定的・発展的に実施してもらう。これにより市の魅力を広くPRし、観光誘客を促進するとともに、まちなかの活性化を図る。実行委員会事務局⇒佐野商工会議所経営支援課 市関係課⇒観光推進課、産業政策課、広報ブランド推進課
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千件	300	250	180	185	190
		来場者数	人	20,000	10,000	20,000	20,000	20,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	令和7年1月12日に「第9回さの新春うんめもんまつり」が開催された。 市の活動 実行委員会への参画、補助金の支出、当日スタッフとして従事	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		実行委員会開催回数	回	3	4	4		
		まつり開催回数	回	1	1	1		
		事業費計	千円	200	200	200		
		一般財源	千円	200	200	200		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	まつりを開催したことにより本市の魅力を知つてもらうことでHPアクセス数及び来場者増加につながった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千件	165	219	174	値が大きいほど良い	効果が下がった
		来場者数	人	10,000	20,000	20,000	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断						
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標						
	効果は変わらない指標数	1指標						
	効果が下がった指標数	1指標						
	指標全体	効果が下がった						

効果		
効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し		○
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

継続的なイベントの実施

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
ボランティアスタッフ等を起用し、市民と一緒に祭り運営を行うことにより、成果向上及びコスト削減につながる。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	さの秀郷まつり開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	「本物の出会い」栃木」観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H5	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	支援事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	東国における武芸の祖として武士たちに崇められた弓術の達人・藤原秀郷を称えて開催される「さの秀郷まつり」を支援することにより、観光誘客を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	市民の郷土愛醸成並びに市外からの観光誘客 (補助金対象団体) さの秀郷まつり運営委員会	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		まつり来観者	人	90,000	90,000	80,000	80,000	80,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	①開催日 令和6年9月28日（土）、29日（日）	活動指標	単位	R4	R5	R6
	②開催場所 市役所周辺	会議開催回数	回	8	10	10
	③内容 市民総おどり、みこし・おはやし巡行、ステージイベント 他	現場作業	回	0	60	60
	④来場者 約16万人 (28日（土）75,000人 29日（日）85,000人)	事業費計	千円	0	7,000	7,300
	(市の活動) 運営委員会に補助金を交付する。 (事業費の内訳) 7,300千円	一般財源	千円	0	0	0
	(運営委員会の活動) 検討委員会、運営委員会、実行委員会の開催。	特定財源（国・県・他）	千円		7,000	7,300
	(実行委員会の活動) 協賛依頼、各種申請、広報宣伝、会場設営、当日の各種イベント運営、会場清掃、片付け等の実施。	(うち受益者負担)	千円			

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	令和元年開催以来の2日間での開催をし、多くの来観者がぎわいを見せる同時に観光誘客にも繋がった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		まつり来観者	人	0	80,000	160,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数
	1指標
	効果は変わらない指標数
	0指標
	効果が下がった指標数
	0指標
	指標全体
	効果が上がった

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
費用が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		
費用の増減無し	○	
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

事務局に市民団体を入れる。 新規イベントの開催、既存イベントのブラッシュアップ。 他祭り実行委員の実行部隊との協働。 協賛してもらうための新たなアイデア。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
事務局に市民団体を入れる。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	どまんなかフェスタ佐野開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当なし	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	どまんなかフェスタ佐野開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H20	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	支援事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	どまんなかフェスタ佐野実行委員会に交付金を交付し、どまんなかフェスタ佐野の開催を支援している。 ※どまんなかフェスタ佐野実行委員会は、どまんなかフェスタ佐野開催のために関係団体、参加団体等により構成された組織。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	各団体活動の周知・活性化を促し、市民や観光客など来場されたお客様には地元の特産品・伝統文化に触れていただく機会とする。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		来場者数	人	46,000	10,000	10,000	10,000	10,000
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千人	300.0	250.0	180.0	185.0	190.0

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	どまんなかフェスタ佐野実行委員会の活動 ・実行委員会の開催（令和6年7月25日） ・どまんなかフェスタ佐野2024の開催（令和6年11月3日）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議開催回数	回	1	1	1		
		実行委員数	人	15	17	17		
		広報チラシ配布数	枚	46,000	46,000	46,000		
		事業費計	千円	3,000	3,600	3,800		
		一般財源	千円	3,000	0	0		
		特定財源（国・県・他）	千円		3,600	3,800		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	R5年度と同規模の開催となったが、近隣自治体のイベントと重なっていることも影響し、来場者が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		来場者数	人	20000	25000	22000	値が大きいほど良い	効果が下がった
		佐野市観光協会ホームページアクセス数	千人	165	219	174	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	2指標				効果が下がった
	指標全体	効果が下がった				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

設営費等の高騰に伴い、出展者による負担金の増額及びステージ設置の要否などについて検討する必要がある。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
市外県外からの観光誘客に寄与しているかの検証。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	スプリングフラワーフェスティバル開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	スプリングフラワーフェスティバル開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間		開始年度	H1	実施方法		
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり	終了年度				直営		
	施策	1 ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	支援事業		
	基本事業	1 積極的な誘客を図る観光戦略の推進							

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会を設置、同委員会への交付金を支出する。同委員会がイベントを主催する。 【イベント概要】日本有数の規模でかたくりの花が群生する「万葉自然公園かたくりの里」での「かたくりの花まつり」をメインに春の花をテーマにしたスプリングフラワーフェスティバルを開催することにより、本市の美しい自然を市内外に紹介し、誘客を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	多くの市民・観光客に佐野の春の花をたのしんでもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		かたくりの里駐車台数	台	3000	3000	3000	3000	3000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会へ交付金支出 (1,900,000円) (実行委員会の活動) 佐野スプリングフラワーフェスティバル実行委員会開催 佐野スプリングフラワーフェスティバル 2025 安全対策のため警備員を設置、佐野市観光協会による駐車料金の徴収	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議・打ち合わせ回数	回	1	1	1		
		広報・宣伝回数	回	11	10	10		
		準備回数	回	12	12	12		
		事業費計	千円	1,900	1,900	1,900		
		一般財源	千円	1,900	1,900	1,900		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・来場者数が前年度に比べ減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		かたくりの里駐車台数	台	1361	2193	1792	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断	効果				
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった		

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し		○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

かたくりの花の開花期間が年々短くなってきており、花の数も減少している。また、当時は、かたくりの花を観光できる場所がなかったことから多くの来場者があったが、近年はそうした場所も増えている。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
イベントの効果的な周知。 かたくりの群生地の環境整備。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H17	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					参画事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議へ会員として負担金支出し。総会や担当者会議への参加を通して各種観光誘客事業を実施。
	* 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議とは両毛地域への観光誘客促進を目的として、東武鉄道、両毛7市（佐野市、足利市、館林市、太田市、伊勢崎市、桐生市、みどり市）により構成している団体である。

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	東武鉄道利用者、沿線住民を対象とし、両毛地域及び佐野市のPR強化。東武鉄道利用観光客の増。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		冊子作成部数	部	88,000	85,000	85,000	85,000	85,000
		イベント時パンフ配布数（佐野市分）	枚	3,500	1,500	1,500	1,500	1,500

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	(1) ふらっと両毛パンフレット・ポスターの作成配布（秋冬版、春夏版） (2) 観光キャンペーン開催（池袋駅、北千住駅、新越谷駅） (3) 観光ポスターの駅・車両広告掲出 (4) 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議の開催 (5) 誘客施策ワーキンググループ会議の開催	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議回数	回	5	5	5		
		イベント回数	回	3	3	3		
		冊子等校正	回	30	30	30		
		事業費計	千円	800	800	800		
		一般財源	千円	800	800	800		
効果説明 (定量及び定性)	特定財源（国・県・他）	千円						
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	昨年度と比較して、冊子作成部数は変化がなかったが、パンフレット配布数は増加した。両毛地域及び佐野市のPR強化がなされている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		冊子作成部数	部	85,000	85,000	85,000	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		イベント時パンフ配布数（佐野市分）	枚	1,250	1,500	3,000	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断					効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標					効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標					効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標					効果が下がった
	指標全体	効果が上がった					

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

イベント実施の回数を増加を検討すべき。また、キャンペーンの地域と方法を見直し、より良いPRを行うことで両毛地域及び佐野市への誘客に繋がる。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるために事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のために事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野コミュニケーションセンター運営事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	佐野コミュニケーションセンター運営事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H14	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					施設維持管理事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野コミュニケーションセンター管理・管理運営協議会の事務（施設運営・パンフレット設置/ポスター掲示/商品展示/ホームページ登録） 佐野ナビゲーションフェアの開催。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野プレミアム・アウトレット来場者、佐野コミュニケーションセンター来場者に佐野市のPRをし、街中へ回遊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		ホームページアクセス件数	件	10,000	10,000	6,000	6,000	6,000
		パンフレット設置数	枚	30,000	20,000	25,000	25,000	25,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・施設運営（パンフレット設置、ポスター掲示、商品展示、ホームページ登録）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		事業者利用件数	件	86	95	89		
		キャンペーン開催件数	回	0	2	0		
		事業費計	千円	6,380	6,441	6,135		
		一般財源	千円	6,380	6,441	6,135		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	ホームページアクセス数はR5と比べ2倍程度増加した。 パンフレット設置数は減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		ホームページアクセス件数	件	5,586	4,896	9,487	値が大きいほど良い	効果が上がった
		パンフレット設置数	枚	23,418	24,046	18,261	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数
	1指標
	効果は変わらない指標数
	0指標
	効果が下がった指標数
	1指標
	指標全体
	効果は変わらない

※ 10万円以上の増減により判断

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった		○	
費用の増減無し			
費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

佐野市のPRと市内回遊へ促すという目的をやや達成できなかった。センター内の商品販売や、新たな佐野市のPRや市内回遊の方法を見直すことで、費用対効果が向上すると考える。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

取組説明
店内陳列の見直し。 市内周遊につなげる新たな展開。

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	例幣使道軸共同開発協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
			施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	例幣使道軸共同開発協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	211	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H22	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度	R6	事業分類	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開					参画事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	例幣使道軸共同開発協議会に参画し、足利市・栃木市・鹿沼市及び各観光協会と共に、例幣使街道の観光PRを行い観光誘客向上を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市への観光客誘客の増加を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	(市の活動) ・解散総会への参加	活動指標	単位	R4	R5	R6
		イベント開催数	回	1	1	0
		事業費計	千円	200	200	0
		一般財源	千円	200	200	0
		特定財源（国・県・他）	千円			
		（うち受益者負担）	千円			

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	解散を控えイベントの開催はなかったものの、観光客入込数は増加した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R4とR5の比較
		観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数
	効果は変わらない指標数
	効果が下がった指標数
	指標全体

※ 10万円以上の増減により判断

効果		
費用	効果が上がった	効果は変わらない
	効果が下がった	
費用は下がった	○	
費用の増減無し		
費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

本協議会は設立以降15年が経過した。令和6年度以降の継続の意義について議論を重ねた結果、様々な事業を広域連携のもと実施することができ、一定の成果を残せたとの結論に至り、令和6年3月26日付けで行われた書面協議により、令和6年度をもって解散する方向性が決定された。その後、令和7年3月4日付で書面により開催された令和6年度総会において解散することが決議された。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	栃木県観光物産協会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H19	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開				事業分類	参画事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	県内の観光事業者や自治体で組織され、栃木県内の観光情報の収集・提供やPR事業を行っている栃木県観光物産協会に対して、会費として負担金を支出し会議やイベントに参加し、観光情報の収集発信を行っている。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の観光情報の提供により、本市の魅力を知つてもらい来訪。宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		広域での連携事業数	事業	16	17	17	18	18

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	【市の活動】負担金の支出。協会が発行する観光情報誌への情報提供、県物産協会HP「とちぎ旅ネット」に記事投稿。 【栃木県観光物産協会の活動】県内観光情報の収集・提供、PR事業の助成	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		会議等への出席回数	回	0	1	1	
		情報提供回数	回	12	12	12	
		加盟団体	団体	369	368	368	
		事業費計	千円	30	30	30	
		一般財源	千円	30	30	30	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光情報誌への情報提供やHPへの記事投稿により、本市への観光誘客が図られた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い 効果が上がった
		広域での連携事業数	事業	13	15	15	値が大きいほど良い 効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果が上がった				
			費用は下がった	費用は変わらない	費用が増加した	
			○			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

「とちぎ旅ネット」や「VISIT TOCHIGI」等の観光情報サイトの有効活用。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光キャラバン事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	「本物の出会い 栃木」観光プロモーション参画事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H10	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	その他市民に対する事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光協会や民間企業等と協力して観光キャラバン隊を編成し、観光誘客向上のため、市外でのセールスを行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	全国の人々を対象として本市への観光誘客を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		佐野市観光協会ホームページアクセス件数	千件	400	400	450	450	450
		観光客入込数	千人	8,400	8,500	8,600	8,700	8,800

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	7/16 両毛地域・東武鉄道観光誘客連絡会議 新越谷キャンペ ーン 8/15 みどり市連携 草木湖まつり 1/13 とちぎフェア（越谷レイクタウン） 2/19～25 SANO city 観光PR ほか 合計 29日間実施	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		観光キャラバン回数	回	26	30	29	
		事業費計	千円	200	200	200	
		一般財源	千円	200	200	200	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	観光キャラバンを通して、本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊につながった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		佐野市観光協会ホームページアクセス件数	千件	165	219	174	値が大きいほど良い 効果が下がった
		観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い 効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない				
			費用は下がった			
			費用の増減無し		○	
			費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

夏の時期に何をPRしていくかの検討。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
対象に合致した新規キャンペーンの実施及びPR方法の検討。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光事業者との連携強化事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	観光事業者との連携強化事業費		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H19	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			一部委託	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					その他市民に対する事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光誘客における観光事業者との連携において、佐野プレミアム・アウトレット内での観光PR事業を展開することにより、市内各所の観光スポットへの誘客及び回遊性を高める。また、観光ツアー造成の働きかけを行う。（一社）佐野市観光協会に業務委託。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を広くPRするため、近隣自治体を含めた観光関係団体と連携したPRイベントや各種ツアーや企画、観光スポットのライティングを展開することで、観光誘客の増加を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		観光協会企画ツアー利用者総数	人	600	100	110	120	130
		さのあかり来場者総数	人	0	0	5000	8000	10000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・4月、6月、9月、10月、11月、12月、1月、2月に佐野プレミアム・アウトレットで「さのまるっとマルシェ」を開催した。名産品や農産物等の販売及びPR冊子の配布を行った。 ・市内観光スポット2箇所でライティングを実施した。 出流原弁天池・磯山弁財天会場（11月中の計9日間） 人間国宝田村耕一美術館（11月及び12月の計4日間）	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		観光PR回数	回	7	9	8		
		打ち合わせ回数	回	10	10	10		
		ライティングを実施した観光スポット数	箇所	0	2	2		
		事業費計	千円	300	5,261	5,800		
		一般財源	千円	0	0	0		
		特定財源（国・県・他）	千円	300	5,261	5,800		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・令和5年度とライトアップ会場が異なっていることもあり、来場者総数は減少したが、インフルエンサーを起用したプロモーションを実施したことで若者や家族の来場者が増加するなど新たな層の獲得に繋がった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		観光協会企画ツアー利用者総数	人	64	173	430	値が大きいほど良い	効果が上がった
		さのあかり来場者総数	人	0	7994	6996	値が大きいほど良い	効果が下がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6		
		観光協会企画ツアー利用者総数	人	64	173	430	値が大きいほど良い	効果が上がった
		さのあかり来場者総数	人	0	7994	6996	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果は変わらない	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった	
		効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない	
		効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった	
		指標全体					費用の増減無し	○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・さのあかりにおける来場者がライトアップ会場以外への回遊及び市内宿泊に繋がるような方策とその分析手段の検討が必要。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるために事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	関東菊花競技大会開催支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	関東菊花競技大会開催支援事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	S4	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					支援事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	関東菊花競技大会に補助金を支出している。また、関東菊花競技大会の開催支援（後援・協賛依頼、賞状下付申請・版徴求、チラシ・ポスターの配布、報告書作成、表彰式の開催支援）を行っている。 ※関東菊花競技大会は、晃陽会・佐野市主催の菊の競技大会であり、昭和4年の第1回大会以来一度も欠かすことなく開催されてきた歴史ある大会である。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい 状態)	菊愛好家、市民、観光客に対して社会情操教育と文化の向上、菊花栽培の鑑賞と普及発展を促し、観光誘客を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		菊花出品数	品	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
		来場者数	人	30,000	30,000	30,000	30,000	30,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	(市の活動)・後援、協賛依頼(9月～10月)・賞状下付申 請・版徴求(9月～11月)・表彰式実施支援 ※チラシ・ポスターの配布、児童絵画展は今年度は未実施 (関東菊花競技大会の活動)・第96回関東菊花競技大会の 実施(令和6年11月1日～23日 春日岡山懸宗寺境内 で)・表彰式の実施(11月23日、春日岡山懸宗寺にて)	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		後援依頼事業者・団体数	回	9	9	9		
		賞状依頼事業者・団体数	回	25	25	25		
		児童絵画展への作品応募数	回					
		事業費計	千円	1,000	1,000	1,000		
		一般財源	千円	1,000	1,000	1,000		
		特定財源(国・県・他)	千円					
		(うち受益者負担)	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	菊花出品数や来場者数は従来と同程度だが、菊愛好家の高齢化により、年々減少傾向にある。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	↓選択して下さい
		菊花出品数	品	1,200	1,200	1,200	値が大きいほど良い	効果は変わらない
		来場者数	人	29,000	29,000	29,000	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※10万円以上の増減により判断					
		効果が上がった指標数	0指標				
		効果は変わらない指標数	2指標				
		効果が下がった指標数	0指標				
		指標全体	効果は変わらない				

費用	効果		
	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった	費用の増減無し	費用が増加した

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

菊愛好家の高齢化により、菊花の出品数が減少傾向にある。また、新規の菊愛好家の参加や、若年層への周知が課題であると考える。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明		
<input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）		
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるために事務改善の検討		
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討		
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討		
<input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）		

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	ラーメン店混雑状況可視化による市内周遊促進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	観光推進課			7	新規or継続	新規事業
	係	観光推進係			1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称 根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり			R5	実施方法	一部委託
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度	事業分類	施設等整備事業
	施策	1 ひとを集め観光戦略の展開		事業期間			
	基本事業	1 積極的な誘客を図る観光戦略の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	本市の観光資源のひとつであり、ご当地ラーメンである「佐野らーめん」を目的に多くの観光客が来訪しているが、待ち時間が長い店舗が発生していることから、訪れた方の満足度低下や市内観光周遊に使える時間の減少等により、観光関連の経済効果が十分引き出せていない状況であり、デジタル技術を活用した混雑状況可視化ツールを導入し、これらの課題解決を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	・混雑状況可視化デバイスを設置 ・佐野ラーメン特集HPの運営	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		混雑状況可視化デバイス数	個			18	
		事業費計	千円	0	0	2,710	
		一般財源	千円			2,710	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	佐野ラーメンを入口に佐野市の魅力を知ってもらい、観光入込客数及び宿泊客数の増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い 効果が上がった
		市の観光宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	値が大きいほど良い 効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

ラーメン店舗に混雑状況可視化デバイスを設置したが、精度が低かった。その原因としては、混雑している際に機器の操作が難しいことやAIカメラが行列を感じ難かったことがあげられる。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
上記の反省点から来年度は、人流データを活用し、佐野ラーメン（佐野市）に興味がある人に対して、直接的・効果的にプロモーションを行う。	

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	全国へそのまち協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課	全国へそのまち協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	H11	実施方法	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度	事業分類	参画事業
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	全国のへそのまちを名乗る市町村により、自治体間の親善と交流、魅力ある地域づくりの推進に資することを目的として設立された全国へそのまち協議会は現在9の会員市町村から成る。会員として負担金を支出し、総会、幹事会、イベント等に参加することで参画市町村との交流及び地域の活性化を図る。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	加盟市町村間の連携・イベントの開催等により、へそのまちを周知し、日本国内の在住の方々に本市を知つてもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光客宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000
		広域での連携事業数	事業	16	17	17	18	18

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	【市の活動】 負担金支出、総会（書面協議）、構成市町村主催観光物産展への特產品出品。 【協議会の活動】 総会、幹事会、加盟促進、観光物産展等の開催、災害時相互応援協定事業、情報発信	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議開催回数	回	2	2	2		
		イベント開催回数	回	4	8	8		
		会議出席回数	回	2	2	2		
		事業費計	千円	10	20	69		
		一般財源	千円	10	20	69		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光入込客数、観光客宿泊数は増加、広域での連携事業数は減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光客宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	値が大きいほど良い	効果が下がった
		広域での連携事業数	事業	3	15	8	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	2指標				効果が下がった
	指標全体	効果が下がった				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

協議会の事業内容を通年同じになってしまっているので、積極的に事業提案をする。 加盟している他自治体の所管部局がすべて総合政策部なので、今後所管部局を検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
市町村交流とまちづくりの推進を趣旨とする協議会のため、総合政策部局所管と打診をし、目的（対象・意図）の再設定をする必要がある。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	栃木県アンテナショップ協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課	栃木県アンテナショップ協議会		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係	参画事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称	根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業		開始年度	H24	実施方法	
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり	期間		終了年度		直営	
	施策	1 ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	参画事業	
	基本事業	1 積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県アンテナショップ協議会会員として、負担金を支出し、会議やイベントに参加し栃木県アンテナショップの内容充実、さらなる充実を図る。なお、栃木県アンテナショップ協議会は県及び県内全市町村で構成され、栃木県の知名度アップ、ブランド価値向上、地域産業振興、誘客促進を図ることを目的に組織されている。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	国内に在住する人に本市の魅力を知ってもらい、誘客につなげる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	①負担金の支出 ②運営会議（3回）、総会（2回）、意見交換会 ③イベントの実施(3/1佐野市特集企画)	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		会議への出席回数	回	7	6	6		
		事業費計	千円	923	804	756		
		一般財源	千円	923	804	756		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	新たなイベントの開催等により観光入込客数は増加となった。 佐野市特集企画イベントを開催し、佐野らーめんに関する認知度調査を行うことができた。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果が上がった				
			費用は下がった			
			費用の増減無し	○		
			費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

日本の一大観光名所となる東京スカイツリーにアンテナショップを設置することは、佐野市においても誘客促進の大きな効果が見込める。アンテナショップと連携したイベント等開催の検討が必要である。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
アンテナショップと連携したイベント等開催の検討。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光PR車維持管理事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	観光PR車維持管理事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H22	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	施設維持管理事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光PR活動の一環として、広告を掲載した観光PR車を、市内外のイベント等で活用を図る。また、適切な車両の維持管理を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市の魅力をPRすることで、本市に訪れてもらう、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	市主催の各種イベントの備品等を運搬するため活用した※さの秀郷まつり、どまんなかフェスタなど	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		イベント等使用実績	回	3	2	2		
		関東地方と近県の人口	千人	47,478	47,420	47,444		
		(人口推計10/1住基台帳)						
		事業費計	千円	154	154	225		
		一般財源	千円	139	139	211		
		特定財源（国・県・他）	千円	15	15	14		
		(うち受益者負担)	千円					

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	市の観光入込客数が増加していることから、観光PR車でのPR効果が増加していると考えられる。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が下がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった	
		効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない	
		効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった	
		指標全体	効果が下がった					

※10万円以上の増減により判断

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し		○

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5的一般財源増減）	費用の増減無し
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数
	0指標

※10万円以上の増減により判断

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	費用は下がった		
	費用の増減無し	○	

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった

</tbl_r

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光パンフレット作成事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	観光パンフレット作成事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H16	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	その他内部事務事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光パンフレットの作成及び配布
------	-----------------

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	観光客に佐野市に訪れてう、宿泊してもらうため観光スポット知ってもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		パンフレット配布部数	部	29,550	15,000	15,000	15,000	15,000
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光宿泊客数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	観光パンフレットの作成 (事業費の内訳) 佐野まるごと観光ガイド（マップ付） 10,000部	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		観光パンフレット作成部数	部	4,700	6,500	10,000		
		事業費計	千円	641	923	715		
		一般財源	千円	641	923	715		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び 定性)	パンフレットを配布することで、佐野市の魅力を積極的に周知し市の観光入込客数増加につながった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		パンフレット配布部数	部	13,100	6,500	10,000	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光入込客数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光宿泊客数	人	56,943	64,290	63,648	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断					効果
効果 (R6とR5の 指標値増減)	効果が上がった指標数	2指標	費用	○	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
	効果は変わらない指標数	0指標					
	効果が下がった指標数	1指標					
	指標全体	効果が上がった					

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

まるごと観光ガイドの1部当たりの単価が高いため、概略版のパンフレット作成やデジタルパンフレットの作成を検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
R8年度に向けて、概略版のパンフレットやデジタルパンフレットの作成を検討する。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	佐野市観光協会支援事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	佐野市観光協会支援事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H16	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					事業分類	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					支援事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市の観光誘客の向上を目指し、観光資源の発掘、観光PR事業を積極的に展開し、また、観光物産会館を中心とした特産商品の開発等の事業展開を積極的に図ることを目的とする佐野市観光協会への補助金交付事業。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	佐野市をPRすることにより本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	【市の実績】 観光協会が実施する事業への協力支援 【協会の実績】 観光PR、観光誘客事業、観光事業者等との連携、観光イベント開催等 ※佐野市観光物産会館	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		Webサイトアクセス数	回/日	1,135	1,396	1,383		
		X(Twitter)フォロワー数	人	4,485	4,986	5,316		
		観光イベント開催回数	回	2	4	5		
		事業費計	千円	4,350	4,350	4,350		
		一般財源	千円	4,350	4,350	4,350		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	民間目線によるマーケティングマネジメントの導入のほか、新規観光イベントの企画等により、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光客入込数	人	6,429,545	7,133,563	7,401,710	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の観光宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	値が大きいほど良い	効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	1指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった
	指標全体	効果は変わらない				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

社会における価値観やライフスタイルの多様化などにより、観光の形態も団体型から個人型が主流になってきており、多様な価値観やニーズに対応した着地型観光商品を造成することで地域活性化につなげる取組など、それぞれのニーズに合った観光サービスの提供が求められている。
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討	
□ 事業費の見直し検討	
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討	
☑ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光地域づくり法人支援事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課	観光地域づくり法人支援事業		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係	業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	R2	直営
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		事業分類
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開					支援事業
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	佐野市において観光庁の観光地域づくり法人（DMO）の考え方に基づき、新たにDOMという手法により、民間目線でのマーケティングマネジメントを導入し「稼ぐ力」を引き出し、観光地経営を担う観光地域づくりを行う舵取り役になり、観光誘客の推進と地域の活性化を図る、法人の事業の柱である、①観光事業、②コンベンション事業、③物販事業等について、事業を安定的に行えるよう多様な関係者で組織する観光地域づくり協議会を運営する。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		旅行消費額	円/人	10,000	11,000	11,300	11,600	11,900
		市の観光宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	・佐野市観光地域づくり候補法人支援補助金を交付。 ・佐野市観光地域づくり協議会への参画。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		観光地域づくり協議会開催数	回	3	2	2		
		事業費計	千円	10,021	9,383	17,981		
		一般財源	千円	21	383	0		
		特定財源（国・県・他）	千円	10,000	9,000	17,981		
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	民間目線によるマーケティングマネジメントの導入のほか、新規観光イベントの企画等により、観光入込客数及び宿泊者数ともに増加となったが、消費額は減少となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		旅行消費額	円/人	12,972	16,105	13,724	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市の観光宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	値が大きいほど良い	効果が下がった
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断	効果			↓選択して下さい
			効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
			○			
			費用は下がった			
			費用の増減無し			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・国内観光客の旅行目的は多様化しており、従来の名所旧跡を中心に加え、市街地、農山村等を回遊し、自ら体験し地域住民と交流する「コト消費」観光が増えている。観光環境はIT化も加わり急激に変化しており、即応しなければ「取り残された地域」になってしまう。
・民間目線でのマーケティングマネジメントを導入し「稼ぐ力」を引き出し、観光地経営を担う観光地域づくりを行う舵取り役になり、観光誘客の推進と地域の活性化を図るために組織基盤を構築する必要があり、引き続き支援を継続する。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
□ 事業効果を上げるための事務改善の検討	
□ 事業費の見直し検討	
□ 業務時間効率化のための事務改善の検討	
☑ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光推進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	観光推進事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H21	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	その他内部事務事業	
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光推進基本計画に掲げるとおり、地域経済の活性化と活力にあふれた地域社会の創造を目指し、市を挙げて観光推進を図る。また、計画に沿った事業展開を実施するための調査・研究及び事業の全般的な進捗管理を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	観光客、外国人観光客に本市の魅力を知ってもらい、来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の観光客宿泊数	人	50,000	60,000	61,000	62,000	63,000

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	経年劣化していた3施設の看板（蓬山ログビレッジ、根古屋森林公園、須花坂憩い館）を更新するとともに、英語表記も加え多言語看板化した。	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		新規多言語看板設置箇所数	箇所	2	2	3	
		事業費計	千円	370	978	220	
		一般財源	千円	370	978	220	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		（うち受益者負担）	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	見やすい看板に更新できたとともに、インバウンドに対しても観光案内が可能となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が小さいほど良い効果が下がった
		市の観光客宿泊数	人	56,943	64,290	63,648	値が大きいほど良い効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	2指標				効果が下がった
	指標全体	効果が下がった				
			費用が増減無し			
			費用が増加した			

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・インバウンドに向け、看板の多言語化は今後も進めていく必要がある。
・老朽化した看板の更新時に多言語化することで必要最小限の費用での事業を進めることができると考える。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
・多言語看板作成はR7年度予算から、事業内容が関連する「訪日ムスリムインバウンド推進事業」に位置付けた。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光資源開発推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑤	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課			新規or継続	継続事業	
	係	観光推進係			市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2121	名称 根拠法令、条例等	項目	目	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業	開始年度 H27	実施方法 直営
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			期間	終了年度	事業分類 その他内部事務事業
	施策	2 魅力ある観光資源の開発と整備		事業分類	その他内部事務事業		
	基本事業	1 新しい観光資源の開発と整備					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	本市に埋もれていて、まだ多くの人に知られていない観光資源の調査・発掘や、新たな観光ルートの開発によって、新たな観光資源として活用できるか調査研究を行う。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	新たな資源開発の発掘・整備を行い、観光資源として整備し、観光誘客につなげる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光客入込数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行った主な活動内容)	他事業と連携し、施設の修繕、改修等を行った。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		調査した観光資源数	箇所	1	1	1		
		開発・整備した観光資源数	箇所	2	7	4		
		開発・整備した観光ルート	ルート	0	1	0		
		事業費計	千円	0	0	0		
		一般財源	千円	0	0	0		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	他事業で行う、施設の修繕、改修等を行うことで本事業の推進を図ることができると考える。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光客入込数	千人	6,429	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・施設の修繕をすすめることができた。また、新たなカーブミラー設置、宇津野洞窟の注意看板を設置することで安全安心な観光施設の維持管理を図ることができた。
・予算の無い事業であり、費用対効果を検討することは困難である。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
・関連する、観光推進事業、観光施設改修事業等に組み入れることが可能であると考える。	

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	インバウンド誘客促進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-⑥	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	会計	一般	事業計画	期間限定複数年度
	課	観光推進課			7	新規or継続	新規事業
	係	観光推進係			1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称 根拠法令、条例等	目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり			R5	実施方法	一部委託
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			終了年度	事業分類	施設等整備事業
	施策	1 ひとを集め観光戦略の展開		事業期間	事業分類	施設等整備事業	
	基本事業	1 積極的な誘客を図る観光戦略の推進			事業分類	施設等整備事業	
					事業分類	施設等整備事業	

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	文化・産業・観光施設等の視察や市長との意見交換等を通じて、多様な魅力を直接体験し、海外へ発信してもらうことを目的とした駐日外交団による視察ツアーを外務省と共に開催する。
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	駐日外交団に本市の魅力を直接体験いただき、体験した魅力を海外へ発信してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10000	8500	8600	8700	8800
		市の外国人宿泊数	人	1000	1000	1100	1200	1300

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	外務省と共に、駐日外交団地方視察ツアーを11月18日～19日の1泊2日で開催し、9カ国12名が参加した。	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		地方視察ツアー開催回数	回	0	0	1		
		事業費計	千円	0	0	2,000		
		一般財源	千円			2,000		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	観光入込客数及び外国人宿泊者数ともに増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光入込客数	千人	6,430	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の外国人宿泊数	人	521	963	1,782	値が大きいほど良い	効果が上がった

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

↓選択して下さい

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光入込客数	千人	6,430	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の外国人宿泊数	人	521	963	1,782	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

効果 (R6とR5の指標値増減)	効果が上がった指標数 効果は変わらない指標数 効果が下がった指標数 指標全体	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		効果が上がった					効果が上がった	

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
□ 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	
□ 事業効果を上げるために事務改善の検討	
□ 事業費の見直し検討	
□ 業務時間効率化のために事務改善の検討	
□ 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	栃木県国際観光推進協議会参画事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し		
	課	観光推進課	栃木県国際観光推進協議会参画事業		款	7	新規or継続	継続事業		
	係	観光推進係	会参画事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業		
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業		
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり			事業期間	開始年度	H19	実施方法	直営	
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり			期間	終了年度		事業分類	参画事業	
	施策	1 ひとを集め観光戦略の展開								
	基本事業	1 積極的な誘客を図る観光戦略の推進								

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	栃木県国際観光推進協議会に加入し、会費として負担金を支出。会議や研修会に参加し、外国人観光客の受け入れ態勢を整備することで、外国人観光客の増加を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	外国人観光客の情報収集、また佐野市を知つてもらうことで、本市に来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		訪日外国人観光客数	万人	1,000	1,000	1,100	1,200	1,300
		外国人宿泊数	人	1,000	1,000	1,100	1,200	1,300

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行つた主な活動内容)	(市の活動) 負担金の支出。国際観光情報誌への情報提供。会議、研修会への参加。 (栃木県国際観光推進協議会の活動) 訪日外国人観光客誘客の為の海外マスコミ、エージェント等の招請、商談会、意見交換会等の開催、情報誌の作成。	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		会議等へ出席回数	回	1	2	2	
		商談会の開催回数	回	2	1	2	
		事業費計	千円	0	0	191	
		一般財源	千円			191	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	外国人宿泊者数は大幅増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	↓選択して下さい
		訪日外国人観光客数	万人	383	2,507	3,687	値が大きいほど良い効果が上がった
		外国人宿泊数	人	521	963	1,782	値が大きいほど良い効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	2指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	0指標				効果が下がった
	指標全体	効果が上がった				
			費用は下がった			
			費用の増減無し			
			費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

協議会が主催または参加する商談会等へ出席することができなかった。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
協議会が主催または参加する商談会等へ参加することでインバウンド等観光推進を図る。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	訪日ムスリムインバウンド推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	3-④	総合戦略	該当あり
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	観光文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し
	課	観光推進課	訪日ムスリムインバウンド推進		款	7	新規or継続	継続事業
	係	観光推進係	事業		項	1	市単独or国県補助	市単独事業
政策体系	体系コード	2111	名称		目	4	義務or任意	任意的事業
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H27	実施方法
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		直営
	施策	1	ひとを集める観光戦略の展開				事業分類	その他市民に対する事業
	基本事業	1	積極的な誘客を図る観光戦略の推進					

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	訪日ムスリムインバウンド地域おこし協力隊員を中心に、プロモーションの実施やセミナー開催による市民理解の向上、受け入れ態勢の推進強化を図り、本市を訪れるムスリムの増加を目的とする。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	本市のムスリム受け入れ態勢を整え、インバウンドの増加を図り来訪、宿泊してもらう。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		市の観光入込客数	千人	10,000	8,500	8,600	8,700	8,800
		市の外国人宿泊数	人	1,000	1,000	1,100	1,200	1,300

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	訪日ムスリムインバウンド地域おこし協力隊員を任用し、観光庁「ICT活用事業」やクレアと協働によFAMツアーを開催した。	活動指標	単位	R4	R5	R6
		セミナー等の開催日数	回	0	1	3
		商談会への出店回数	回	0	3	1
		招請事業者数	者	0	0	3
		事業費計	千円	304	3,598	4,310
		一般財源	千円	304	3,584	4,292
		特定財源（国・県・他）	千円		14	18
		（うち受益者負担）	千円		0	0

(3) 活動による効果

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び定性)	ムスリムインバウンド地域おこし協力隊による活動により、観光入込客数及び外国人宿泊者数ともに増加となった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		市の観光入込客数	千人	6,430	7,134	7,402	値が大きいほど良い	効果が上がった
		市の外国人宿泊数	人	521	963	1,782	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用が増加した
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数
	0指標
	効果は変わらない指標数

※ 10万円以上の増減により判断

効果			
費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった
費用は下がった			
費用の増減無し			
費用が増加した	○		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

（1）令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題
--

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
地域おこし協力隊員が令和7年度で退任となるため、令和8年度以降の取組みについて検討が必要。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるための事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	コンベンション・フィルムコミッション推進事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当あり	
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ	該当なし

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	コンベンション・フィルムコミッション事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2113	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業期間	開始年度	H23	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		終了年度			直営	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	その他内部事務事業	
	基本事業	3	コンベンション事業の推進						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	コンベンション（総会や大会を本市へ誘致すること）の調査研究及びフィルムコミッション（映画やテレビ番組などを本市で撮影するときの支援）事業を実施する。また、フィルムコミッション（映画やテレビ番組などを本市で撮影するときの支援）事業により、本市の魅力を広く発信し観光誘客に繋げるため、地域おこし協力隊員を配置し、事業の推進を図る。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	制作会社に本市の豊富なロケーションとアクセスの良さを知つてもらうことで、ロケを誘致し、観光誘客を図る。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		撮影候補地の提供数（放送件数）	件	25	15	18	18	18

(3) 目標値

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に 行った主な活 動内容)	佐野フィルムコミッションホームページの管理 佐野フィルムコミッションの運営 エキストラ募集支援 ロケ支援随時実施 観光協会と連携しコンベンションガイドブックの配布	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		ロケ候補地数	件	220	220	220		
		事業費計	千円	3,649	3,930	2,152		
		一般財源	千円	3,639	3,914	2,146		
		特定財源（国・県・他）	千円	10	16	6		
		（うち受益者負担）	千円					

(2) 活動を説明する数値データ及び事業費の推移

↓選択して下さい

効果説明 (定量及び 定性)	撮影候補地の提供数（放送件数）は令和5年度と同程度であるが、作品が異なるため、新たな観光誘客の機会創出となっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		撮影候補地の提供数（放送件数）	件	15	17	23	値が大きいほど良い	効果が上がった

(3) 活動による効果

(4) 事業効果を説明する数値データの推移

効果説明 (定量及び 定性)	撮影候補地の提供数（放送件数）は令和5年度と同程度であるが、作品が異なるため、新たな観光誘客の機会創出となっている。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		撮影候補地の提供数（放送件数）	件	15	17	23	値が大きいほど良い	効果が上がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用は下がった	※ 10万円以上の増減により判断				
		効果	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった	
		効果が上がった指標数	1指標			
		効果は変わらない指標数	0指標			
		効果が下がった指標数	0指標			
		指標全体	効果が上がった			

費用	費用は下がった	○	
	費用の増減無し		
	費用が増加した		

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・他市においても盛んに行われているフィルムコミッション事業を推進し、撮影候補地の提供数を増加させるためには、本市の認知度向上が必要である。
・ロケの実績を観光誘客に繋がるような情報発信が必要である。
・本市でのコンベンションを誘致できるような情報発信や開催に向けた支援方策の検討が必要である。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<ul style="list-style-type: none"> ・フィルムコミッションに携わる地域おこし協力隊員を募集の上、採用する。 ・フィルムコミッションHPの内容充実化を図る。 ・観光推進課SN Sを活用して情報周知を図る。

- 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）
- 事業効果を上げるために事務改善の検討
- 事業費の見直し検討
- 業務時間効率化のための事務改善の検討
- 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	まちの駅設置促進事業	実施計画事業or一般事業	一般事業	市長公約	該当なし	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	まちの駅設置促進事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2114	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2 新たな流れの創造による賑わうまちづくり	事業期間		開始年度	H22	実施方法		
	政策	1 観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり	終了年度				一部委託		
	施策	1 ひとを集め観光戦略の展開					事業分類		
	基本事業	4 おもてなしの心の醸成					その他市民に対する事業		

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光客に観光情報の提供やトイレなどの休憩場所として「まちの駅」を広く市内に設置することで、点在する観光スポットを連携させ回遊ルートの形成を図るとともに、市民の意識におもてなしの心を醸成し、観光客にまた訪れたいと思われる佐野市を市民と共に形成していく。
------	---

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	事業者（市民）がまちの駅に参画することにより、観光客に対するおもてなしの心を醸成する。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		まちの駅数	箇所	37	35	35	35	35

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	まちの駅会員の募集、まちの駅通信の発行、イベントへの出展	活動指標	単位	R4	R5	R6	
		まちの駅通信の発行	回	4	4	4	
		事業費計	千円	101	101	101	
		一般財源	千円	101	101	101	
		特定財源（国・県・他）	千円				
		(うち受益者負担)	千円				

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	令和6年度はまちの駅の数が減少してしまった。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質 R5とR6の比較
		まちの駅数	箇所	35	33	29	値が大きいほど良い 効果が下がった

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断			効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標			効果が上がった
	効果は変わらない指標数	0指標			効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標			効果が下がった
	指標全体	効果が下がった			

費用	効果が上がった	効果は変わらない	効果が下がった

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

加盟店舗は料金を支払って登録していただいているが、利用率が低調である。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明	
<input checked="" type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど）	利用率に鑑み、料金を徴してまで事業継続することの必要性を検討する必要がある。
<input type="checkbox"/> 事業効果を上げるための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討	
<input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討	
<input type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）	

仕事の振り返りシート（令和6年度実施分）

作成・更新日 令和7年12月1日

事業名	観光ボランティア育成事業	実施計画事業or一般事業	実施計画事業	市長公約	2-③	総合戦略	該当なし
		施策横断的な取組との関連性	SDGs	該当あり	コンパクトシティ	該当なし	スマートシティ

1. 基本情報

担当組織	部	産業文化スポーツ部	予算中事業名	予算 科目	会計	一般	事業計画	単年度繰り返し	
	課	観光推進課	観光ボランティア育成事業		款	7	新規or継続	継続事業	
	係	観光事業係			項	1	市単独or国県補助	市単独事業	
政策体系	体系コード	2114	名称		目	4	義務or任意	任意的事業	
	基本目標	2	新たな流れの創造による賑わうまちづくり		事業	開始年度	H19	実施方法	
	政策	1	観光とコンベンションによる賑わいと活力あるまちづくり		期間	終了年度		一部委託	
	施策	1	ひとを集め観光戦略の展開				事業分類	人材育成事業	
	基本事業	4	おもてなしの心の醸成						

2. 事業概要と目的及び（基本計画期間内）目標値

(1) 事業概要

事業概要	観光ボランティアガイド養成講座の開催及び市内観光ボランティアガイド団体の支援を行うことにより、観光客をおもてなしの心で迎え入れ、佐野市の観光素材の価値、特徴、歴史的背景等、単に訪れただけでは味わえない情報を提供する観光ガイドを担う人材の育成を図る。 ※市内観光ボランティアガイド団体：佐野観光ボランティアガイド協会
------	--

(2) 目的

目的 (本事業によって成し遂げたい状態)	観光ボランティアガイドに興味のある方や観光ボランティアガイド協会の会員に、観光案内を行う上で必要な知識及び技術を養うことで、観光客の満足度や再訪意欲を向上させる。	効果指標	単位	R3	R4	R5	R6	R7
		観光ガイド実施回数	回	55	60	60	60	60
		観光ボランティアガイド協会会員数	人	33	30	34	34	37

3. 前年度の実績（活動及び費用対効果）説明

(1) 活動実績

活動実績 (R6年度に行なった主な活動内容)	(市の活動) 観光ボランティアガイド協会の役員会への出席、事務及び研修支援 (佐野観光ボランティアガイド協会の活動) ・臨時観光案内所開設（5回、30日間）、随時観光ガイド（12回） ・総会開催数 1回 ・定例会開催数 6回 ・役員会開催数 6回 ・視察研修回 1回	活動指標	単位	R4	R5	R6		
		養成講座開催数	回	11	0	11		
		会議・打合せ回数	回	13	13	13		
		事業費計	千円	197	224	197		
		一般財源	千円	197	224	197		
		特定財源（国・県・他）	千円					
		（うち受益者負担）	千円					

(3) 活動による効果

効果説明 (定量及び定性)	・全国的に観光需要は回復しているが、旅行形態の変化による影響もあり、ガイド実施機会は減少した。 ・協会会員の高齢化に伴い、会員数が減少した。	効果指標	単位	R4	R5	R6	指標の性質	R5とR6の比較
		観光ガイド実施回数	回	8	18	12	値が大きいほど良い	効果が下がった
		観光ボランティアガイド協会会員数	人	30	34	34	値が大きいほど良い	効果は変わらない

(5) 費用対効果結果（自動判定）

費用（R6とR5の一般財源増減）	費用の増減無し	※ 10万円以上の増減により判断				効果
効果（R6とR5の指標値増減）	効果が上がった指標数	0指標				効果が上がった
	効果は変わらない指標数	1指標				効果は変わらない
	効果が下がった指標数	1指標				効果が下がった
	指標全体	効果が下がった				○

4. 次年度に向けた検討

(1) 令和6年度の事業実施における反省点、環境変化や関係者からの意見等を踏まえた検討課題、費用対効果向上のための課題

・旅行形態の変化による影響もあり、R5年度を上回ことができなかった。
・旅行会社や観光客向けに観光案内サービスについての周知を充実させる必要がある。
・会員の高齢化に伴い、会員数が減少しているため、若い世代に向けた養成講座受講生募集についての方法を検討する必要がある。

(2) 上記反省点及び課題を踏まえた、令和7年度及び令和8年度の取組

取組説明
<ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 事業の在り方検討（廃止、休止、再編成、受益者負担の見直しなど） <input type="checkbox"/> 事業効果を上げるために事務改善の検討 <input type="checkbox"/> 事業費の見直し検討 <input type="checkbox"/> 業務時間効率化のための事務改善の検討 <input checked="" type="checkbox"/> 特に検討事項無し（現状維持又は現状の計画通り）